



配管 職長 山野寺 竜平

(前編に続く)
 常務からの力強い言葉を受け、原因不明のスランプを抜け出した山野寺竜平。職長として活躍する現在は、どのような思いを胸に現場に立っているのだろうか。印象に残る仕事を振り返りながら、その原動力に迫る。

不安とプレッシャーで眠れぬ日々

職長として、気持ちも新たに毎日の業務に取り組む山野寺。中でも思い出深いのは、職長として立った2つ目の現場だ。東北のある大学敷地内に新棟を建設する仕事で、それまでに経験してきた現場と比べても規模が大きい。不安とプレッシャーに押しつぶされそうだったのをよく覚えている。見慣れぬ図面に向き合いながら、サポートを作っていた。サポート自体は他の現場でも作

るものだが、この現場で使用した材料は、それまでに馴染みのないものだった。

「納期に間に合うだろうか」。夜、眠ろうと目を閉じても、そんな心配が頭に浮かぶと目が冴えてしまう。居ても立ってもいらなくなる、布団から跳ね起きて会社に向かうと、人気のまったくない真夜中の工場で黙々と作業にあたった。眠れないなら、少しでも作業を進めた方がいい。そう考えての行動だった。

きつい仕事を乗り越えるためのモチベーション

日中は仲間たちと現場に立ち、夜間は一人、工場で作業。そんな日々が続くと、いくら体力に自信があっても、さすがに疲労が溜まってくる。それでも疲れた心身に鞭打って、来る日も来る日も働

き続け、無事に納期に間に合わせた達成感は、今でも忘れることができない。

実はこの頃、別の夜間現場でも職長を勤めていた山野寺。心身共に追い込まれたが、「今手がけている2つの仕事を成し遂げれば、きっと周囲に認めてもらえる」というモチベーションを胸に、朝から晩まで必死に働いた。2つの現場を工期通りに納められた時には、ほっと胸を撫で下ろしたという。

「途中で投げ出さずに、最後までよくがんばったな」。先輩社員からその一言が、心の底から嬉しかった。

両親への親孝行

同時に進行させた2つの現場を完遂し、ふと頭をよぎったのは両親の顔だ。いつも陰ながら支えてくれる父と母に恩返ししたい。社会人として一人立ちした自分の姿を見せて安心させたい。そ

う感じた山野寺は、2人にこう提案した。

「何かほしいものがあれば、プレゼントするよ」。
 予算10万円という、太っ腹な提案だったが、そこには「きつと遠慮して、1万円以内のものをリクエストしてくるだろう」という算段もあった。けれども、母から受けたリクエストは8万円以上するダイソンの掃除機。これに父がほしいという野球のバットインダグロブを加えると、ちょうど10万円に。大きな誤算はあったものの、両親の喜ぶ顔に気持ちは明るかった。

さらなる飛躍に向かつて

その後も様々な現場で職長を務め、知識と経験を培ってきた山野寺。年齢層も幅広い現場で、個性豊かな職人たちをまとめるのは至難の業だ。それでも、持ち前

の社交性を存分に発揮し、信頼関係を築き上げてきた。心がけているのは、いつでも「ありのままの自分」でいること。どんな相手にも公平に、礼儀正しく接するからこそ、職人たちも山野寺を職長として認めてくれている。学生時代の部活動で学んだ礼儀は、現在の仕事においても大きく活かされているようだ。

「まわりから認められ、褒められることが何よりのモチベーションです。結婚してからは、『家族のためにもがんばりたい』と感じるようになりました。今後周囲の人々から多くの信用を得られるよう、努力を重ねていきたいと思います」。

2021年4月には念願の第一子も誕生し、父になる予定だ。仕事にも育児にも前向きに取り組む、より一層充実した日々を過ごしていくだろう。職長として、父として、これからの躍進に期待が高まる。

企業情報

設立年：2012年4月
 年商：608,257,000円
 ※2020年3月決算時点



インタビューを飾ってくださった



山野寺さんってこんな人!

巻頭インタビューに登場していただいた山野寺さんと親しいお二人に、思い出やエピソードをお伺いしました!山野寺さんの人物像が浮かび上がります……!

山野寺さんとの関係性



常務
てらさわ とし ひろ
寺澤 寿洋さんより

私が上司で山野寺さんが部下の関係です。3年ほど前から一緒に働いております。

メッセージをお願いします!
もっと上に行けるように、今まで通り頑張ってください!

山野寺さんを一言で表すと?

「天然」です。周りが言っていることにつられてしまうところがよくあるからです。しかし一緒に働き始めて間もないころは真面目な子というイメージでした。2年前ほど前に現場を任せるとき、作業が終わって皆家に帰ってから、山野寺さんが1人だけ現場に戻ってきて配管を作っていたことがありました。責任感の強いところや心配性な部分もあるのかなと思います。

山野寺さんとの関係性

同級生ですが、山野寺さんが5年ほど先輩で、私が後輩の関係です。



たかはし なお
高橋 奈緒さんより

山野寺さんを一言で表すと?

「ふざけているけれど真面目」です。面白いことばかり言っっては、現場の雰囲気や和ませています。しかし、仕事はしっかりとこなしています。それぞれが1人作業の際は、自分も作業をしつつ職長としてアドバイスを回すなど、周りへの気遣いを欠かしません。私が入社したてのころの出張では何もわからず、誰かに聞くにも聞けず不安でした。そんな中、現場で

山野寺さんが「わからなくてもいいから一つやってみな、1日かかってもいいから。何かあったらケツ拭うよ」と言ってくれました。私はそのとき、初めて1人で一つの配管をつなげました。途中で手伝ってもらいながらではありましたが、できてよかったなと思います。山野寺さんは同級生と思えないほど落ち着いていて、怒っているところを見たことがありません。山野寺さんは私の目標です。

メッセージをお願いします!
山野寺さんだとわからないことを聞きやすいと感じます。アドバイスをしてくれて、相談にも乗ってくれ、いつも気にかけてくれてありがとうございます。これからもよろしくお願いします!

歴史の偉人名言

織田信長

名言には、モチベーションアップや背中を後押ししてくれる作用があります。今回は、人気の高い戦国武将、織田信長の言葉をご紹介します。数百年前の言葉がいまだに言い伝えられていることもあり、そのエッセンスは現代社会にも応用することができるでしょう。

才のある者は、
鍛錬を怠る、自惚れる。
しかし、才がない者は、
日々努力する。

意味:

才能のある者は、それに驕り鍛錬をしなくなり、自惚れてしまうものだ。しかし、才能が無いものは、才のあるものに負けじと日々努力する。この心掛けこそ、いずれ、才能が開花する。



頭の良い者、才能のある者に対する戒めの言葉として信長が残した言葉です。戦国時代では下馬評とは異なる結末を迎える戦いが多くありました。十倍の軍勢を持つ今川義元を打ち取るなど、常に新しい戦術を考え日々鍛錬した信長らしい言葉です。どんなに優れた才能があっても、それに満足して何もしなければ簡単に追い抜かれる。日々自らを磨き続ける努力の大切さを教えてくれる名言です。

織田信長とは

1534年尾張国(現在の愛知県)に生まれ、全国統一目前まで迫った戦国武将です。若い頃は「うつけもの」と呼ばれ馬鹿にされていたが、戦術や経済の才能に溢れ、有名武将に勝利したほか、室町幕府を滅亡。寺社にも容赦なく立ち向かい、天下統一直前に家臣の明智光秀に本能寺の変で討たれました。日本で最も憧れられている戦国武将の一人です。